虹　の　か　け　橋

― フェルヘフ・高桑兩博士の書簡往復 ―

三　好　保　德

愛媛縣立松山北高等學校

謹啓　それは丁度昨年の秋のことです。高桑興先生はドイツの世界的多足類學者ヘルヘフ博士から,ほゞ14ケ年の間に受取られた29通の書簡を全部私へ送つて下さいました。それで私も一應その全部を讀ませて頂きました。ところがその內容は全く日本の多足類研究の發展をたどり示す裏面史であり,大變貴重な資料であることがわかりましたので,こゝに書簡の順にしたがつてその內容をおつたえしようと存じます。

29通の書簡の中,ハガキが2通ありますが,他は皆手紙でともに克明にかゝれた自筆のドイツ文です。

2人の多足類學者がこのような交渉をもつにいたられたそのはじめは,高桑先生のお話によりますと,先生が多足類の文献を購入していられたライプチヒの書店へ依頼され,その書店がヘルヘフ博士へ東洋の多足類研究者としての高桑先生を紹介したのによる,とのことでありますが,實際ヘルヘフ博士の手紙を見てみますとその事は間違いないようです。それでは第1信から。

第1信は（1928. 8. 10 に投函されたものでありまして）無論ヘルヘフ博士から高桑先生への最初の手紙であります。そのはじめに Durch die "Akademische Verlagsgesellschaft" in Leipzig wurde mir mitgeteilt, dass Sie sich für Myriapoda und besonders Chilopoda interessieren. とありますのは,前に申上げました事情を明らかに示していますので,特に原文をそのまゝお目にかけることに致しました。

それからヘルヘフ博士は,「日本の多足類は以前少し調査したことがあるけれど,まだ殆ど明らかになつてはいませんから,標品を送つて下さるなら本當に有難いことだと思います。殊にヤスデの標品をお賴みします。私はそれに對してドイツの多足類の文献を送つてあげようと思います。そして又明らかに種名のわかつているヨーロッパ產多足類の標品を送つてあげましょう。」

こう書いてから今度は標品を送る方法が圖入りで說明されています。即ち「管瓶の中に標品をアルコール漬にし,その上から脫脂綿を入れて標品が動かぬようにします。そしてコルク栓をしつかりとして下さい」とあります。次には採集上の注意です。「多足類の採集は

山林地帯，殊に濕潤な峡谷を見おとしてはなりません。又いろいろ腐つた植物の下も探さればなりませんし，御地にも洞穴地帯があるでしようがそこは重要です。」とあります。以上が第1信の内容でありまして，この手紙はその月の28日に東京，阿佐ケ谷の高桑先生の手に渡つています。先生はこのような手紙を受取られて大いにお喜びになつたことだろうと想います。

早速先生は多くの標品をお送りになつたのでしよう。

第2信です（1929.2.6 に出されています。）「本日遂に43箇の管瓶入り標品が無事到着しました。あなたのお送り下さつた標品は私にとつては大變珍らしいものです。この中には新種もきつと多いことでしよう。」と喜んだヘルヘフ博士の顔が目前に浮ぶように書いてあります。つづいて，「いよいよ標品を送つて下さることになりましたが，一應の基礎的研究をすますには少くとも2-3000個体を必要とします。なかんずく1種について多くの個体が必要なのです。比較研究のためにです。嗟だお骨折りではありましようが，どの種についても多くの標品をお送り下さい。殊に倍足類の標徴は雄に出ています。雄です。雄です。雌や幼生では駄目なのです。

私は倍足類を送つて頂きたいのです。オオムカデ類のものは殆ど送つて下さる必要はありません。それは既によくわかつていますし，又あなた御自身で，はつきり同定なさることがお出來になるでしようから。」と述べ次に再び標品の送り方についての注意が書かれています。長い郵送期間中に標品が動搖して歩肢が離れるということがおこりますと全く同定を不可能にするという重大な悲しむべき結果をひきおこすのでくれぐれもヘルヘフ博士の注意がなされているものと想います。さて終りに，「あなたはやがてヨーロツパ産の明らかに種の決定されている多足類の標品を私から受取られるでしようが，それはあなたの行われる比較研究に役立つことを思います。」とありました。

第3信は 1929.5.16 に發信され高桑博士は6月2日に受取つていられます。この手紙にヘルヘフ博士が送られたヨーロツパからの多足類がどのようなものであつたかゞ明記されています。次に書いてみましよう。

1, Pachyiulus fuscipes Koch Dalmatien
2, Lysiopetalum carinatum Brandt 〃
3, Polydesmus verhoeffi Lohm. W. Deutschland
4, Polydesmus collaris Koch Oesterreich
5, Glomeris pustulata Latreille Bayern
6, 〃 conspersa var. pentasticha Latzel Tirol
7, 〃 hexasticha, marcomannia Verhoeff Bayern

8, 〃 pulchra Koch Dalmatien
9, Haploglomeris multistriata Latzel Oesterreich
10, Gervaisia noduligera Verhoeff 〃
11, Atractosoma meridionale Latzel 〃
12, Heteroporatia mutabile 〃 〃
13, Leptoiulus trilobatus Verhoeff Karpathen
14, 〃 alemannicus 〃 Tirol
15, Cylindroiulus meinerti 〃 Bayern
16, 〃 londinensis Leach 〃
17, Lithobius picens Koch Transsilvania
18, Himantarium gabrielis Latzel Italien
19, Geophilus flavidus, noduliger Verhoeff 〃
20, Scolioplanes acuminatus Leach Deutschland
21, Schendyla nemorensis Latzel 〃
22, Cryptops hortensis Leach 〃

の22標品でした。「これは大切に保存して日本のものとの比較研究に用立て下さい。」と書き加えられ,「次に,あなたが送つて下さつた多足類を多少研究しましたからお知らせしましよう。」といつて左記の學名があげられています。

no. 29 Tokyosoma n. g. takakuwai n. sp.
no. 25 Niponia n. g. nodulosa n. sp.
no. 24 Orthomorpha gracilis Koch
no. 8 u. 9 Mecistocephalus takakuwai n. sp.
Sachalin: Arctogeophilus sachalinus n. sp.
no. IV Pleurogeophilus procerus (Koch) Att.
no. 2 Otocryptops rubiginosus Koch
no. 18 Bothropolys asperatus Koch

「それから又送つて頂けると思いますが,その時は等脚類にも御注意下さい。多足類を採集なさる時に發見されると思いますから。

やがてあなたがお送り下さつた多足類についての論文を出します。」

以上が第3信です。

第4信はハガキです。(1930. 3. 8 に發信され) 高桑先生の所へ3月27日に着いています。

「昨年の12月29日付おハガキ拜見しました。あなたの御希望に出來るだけそいたいと思い

ます。それから私が執筆しているブロンの倍足類の最近分册にあなたの發見なさつた,

Tokyosoma takakuwai n. g. n. sp.

を發表しました。」とあります。そこで今, Dr. H. G. Bronns—Klassen und Ordnungen des TIER-REICHS の倍足綱, 第2卷を見てみまと1481頁に, 亞科をつくつた Tokyosominae, Tokyosoma n. g. の記載がありました。しかし實は別にこの新屬, 新種の記載は Zool. Jahrb. 62. Abt. f. Syst. (1932) の中に詳細に出ています。

さてその次に書いてありますことは見のがすわけにはゆきません。即ち,「去る1月に私の所へ貴國の研究生内田亨氏が來訪されました。この方も同樣に多足類に關心をもつていらつしやるのです。私はそこで多足類の採集法等について若干の御指導を爲ることが出來ました。恐らくあなたは内田さんと連絡をとられることが出來るでしよう。内田さんは今月のうちに日本へ歸りたいと考えていられます。」とあるのです。

そこで私は早速内田亨博士にその當時の思い出をおうかゞい致しましたところ,内田博士は次のような御手紙を下さいました。ヘルヘフ博士を寫眞でしか知らない私にとりましては眞に貴重なものです。それで内田先生には無斷ですけれどその御手紙を次に拜借致しましよう。

拜復 お問合せの趣うれしく拜見しました。小生は留學前は專ら分類をやつていましたが,外遊を期して從來以外の性の問題と感覺生理の方面を身につけることにきめました。しかし日本產の動物の種名を早く纏めたいと思つていたので,日本にいると想像されるがまだ發見されない動物群などの專門家をたずねて今後本邦の研究者との連絡をしようと思いました。それでヘルヘフ氏をたずねたわけです。

その時はミュンヘン大學でフォン・フリッシュ教授の下で魚の味覺について研究をしていました。そして3月の中に各地を旅行しながら,パリーのソルボンヌ大學のコーレリー教授の下に行くことになつていたので,その前にヘルヘフ氏をたずねたのでした。所はミュンヘンの郊外のパシングでした。博物館のステツヒヨウ氏に場所をきいてたずねた所,ドイツの冬が暗いためでしようか,日は多分3月の初めです。何しろ暗い部屋に通されて,年は55か6,或はもう少し上のように見受けた同氏が出てきました。ひげは生やしていましたが,大分白いものがまじつていたと思います。比較的やせた人で,背の高さはドイツとしては少し高い方だつたでしようか,話し方は靜かでしたが,明るい質の人ではなく,ごく質素な生活をしているように思われました。研究は倍足類の外に甲殼類の等脚目をやつていて,この兩類は高山性の扁たい種類になると,よく似ていることなどその時知りました。同氏は高桑氏のことを話されていましたが,小生は高桑氏がその方面をやつていられることを知らなかつたので,初めは高倉卯三麿氏かと思い,どうもその方面をやつていられるとは思わないので疑問でした

が,高桑氏からの繪ハガキを見て高桑という人がとも角倍足類をやつていられるということを知つたおけでした。高桑氏のことは歸朝後にはじめて知りました。また何か思い出したらお通知します。

以上です。いろいろのことが思い浮びます。次に又ヘルヘフ博士の第5信からお知らせしたいと思つています。1949.7.8　三瓶にて　　敬具

謹啓

ヘルヘフ博士のお手紙について申上げなければなりません。

第5信です(1931.9.13發信)。「あなたのお送り下さつた標品についての研究が手間どりましたが,今迄のところ次のように明らかになりましたからお知らせします。

N. 29　Tokyosoma takakuwai n. g. n. sp.

N. 31　Epanerchodus takakuwai n. sp.

N. 25　Niponia n. g. nodulosa n. sp.

N. 24　Orthomorpha gracilis Koch

N. 26　　〃　circophora n. sp.

N. VI　Mecistocephalus marmoratus n. sp.

Sachalin; Arctogeophilus sachalinus n. sp.

N. 8 u. 9　Mecistocephalus takakuwai n. sp.

N. 19　　〃　fenestratus n. sp.

N. IV　Pleurogeophilus procerus (Koch) Att.

N. 2　Otocryptops rubiginosus Koch

N. 2　Otocryptops sexspinosus quadristriatus n. subsp.

N. 14　Esastigmatobius japonicus Silv.

N. 18　Bothropolys asperatus Koch

N. 13　(Korea) Lithobius sp. defect

N. 12　(Sachalin) Monotarsobius sp.

これ等多くの新種についての詳細は,やがて進呈するそれ等についての私の論文の中でごらんになることゝ思います。

ここで更に日本の標品を送つて下さることを大いに望むのですが,その時にはその動物の產地をくわしく御報告下さい。おたのみします。殊に倍足類の標品を。

先日私の所をたずねられた學者,東京の內田さんとはお知合ですか?」

とありまして,さらに追申として,別便で新しい私の論文3部をお送りしました,と書きそえてあります。

第6信（1934.7.14發信）は第5信から隨分ながい時をへて來ています。この手紙には，「あなたがお送りになつた圖とその記載文とを拜見しました。そして私はこのあなたがお示しになつたスコリオプラーネスの1種は既に報告があつたもの丶ように思います。この種については問題があります。私はそれで決定的な意見を申上げることをさしひかえます。あなたは先づ1度アテムス氏の著書〃Geophilomorpha〃の中にあげられているスコリオプラーネスの各種と比較してみて下さい。

今朝，私はあなたに又新しい論文3册を進呈しました。この中の Sven Hedin 博士が中國奥地を採集なさつたものを研究しました論文の中にスコリオプラーネスに近緣な新屬※を發表しましたから御覽になること丶思います。

それから數週間以內に私の唇足類についての論文※※が刊行されます。その中に以前あなたが送つて下さつた標品についての研究がのつています。出來ましたらすぐにお送り致しますが，その中には多くの新種を含んでいます。就中 Mecistocephalus の3新種，Esastigmatobius の1種を見て下さい。

目下當地に日本の皇子が滯在していて吾々に歡迎されています。皇子とその妃との寫眞がいろいろの定期刊行物に載つています。

日本の標品をどうか又お送り下さい。その代りに私はよろこんでヨーロツパの標品をさし上げます。」と結んでありました。

※ Arkiv för Zoojogi. Band 26 A. N:O 10. でその屬名は Paraplanes です。

※※ Zoologische Jahrbücher (Systematik) Band 66, Heft ½, 1934 です。

第7信，(1935.5.20 發信)

「あなたの東部アジヤ產多足類の第2回の標品を受取りました。そしてあなたの最近の御手紙も深く感謝致します。

標品についてはその大部分を研究しましたので次にお知らせします。

27. Mt Takao; Trichozonium n. g. hirsutum n. sp.
14. Beppu; Bacillozonium n. g. nodulosum n. sp.
38. Formosa; Syntelopodeuma formosanum n. sp.
17. Atami; Fusiulus simplex n. sp.
21. Yokohama; Epanerchodus orientalis diversipes m.
2. Urawa; Fontaria scabira n. sp.
20. Yokohama; Nedyopus tambanus mangaesinus Att.
22. Manchuria; Orthomorpha circofera affinis m.
24. Tokyo; 〃 gracilis Koch

47. Enosima; Hyleoglomeris (Perkeomeris n. subg.) japonica n. sp.
16. Tokyo, Ikao; Fontaria falcifera n. sp.
19. Yokohama; Takakuwaia n. g. furculigera n. sp.
40. Ikaho; Fontaria coarctata, acutidens Att.
39. Nikko; 〃 attemsii n. sp.
24. Kamakura, Orthomorpha gracilis Koch

それからあなたがお送り下さつた イシムカデ の標品の方は殆ど歩肢がとれてしまつていました。綿でつめてないのですもの。それで最後の歩肢が，それなくしては種の決定は出來ない程大切なものですのに，それがとれているのですから，多くの標品が同定不可能でした。しかしそれでも私が確認したものだけを申上げましよう。

6. Tokyo; Esastigmatobius longitarsis Verh.
18. u. 37. Japan; Bothropolys asperatus Koch
12. Sachalin; Lithobius sachalinus n. sp.
34. Tokyo; Monotarsobius takakuwai n. sp.
15. Sachalin; Lithobius haasei Att.

次に以前私がつけました新屬名 Niponia が既に他の動物の屬名として使用されているというお知らせを感謝致します。それであの屬名を Niponiella と變更することにします。

それから若しお望みになりますなら，あなたが採集なさつた日本產の新動物についての私の研究を日本の定期刊行物に發表することをよろこんで承知します。 そしてすぐ原稿及原圖をお送りしましよう。

又おたずねのイシムカデ類に關する文献としましては，私は私が書きましたところの……〃Bronn's Klassen und Ordnungen des Tierreichs〃中の唇足類の研究をあげます。これは多分，東京の動物學會にもあるでしよう。そして更にアテムス氏の多足類の研究〃Handbuch der Zoologie〃 von Kükenthal, 4. Bd. 1926, Berlin. をもおすゝめします。

今朝私は36種の明らかに同定されている ヨーロツパ 產多足類の標品をあなたに進呈しました。その目錄は左の通りです。

1. Chaetechelyne vesuviana Newp. Italien
2. Scolioplanes crassipes Koch S. O. Alpen
3. 〃 transsilvanicus Verh. Tirol
4. Dicellophilus carniolensis Latz. Krain
5. Geophilus insculptus Att. Bayern

6. 〃 longicornis austriacus Latz. 〃
7. Pachymerium ferrugineum Koch Deutschland
8. Polybothrus fasciatus Newp. Süd-Alpen
9. 〃 leptopus Latzel 〃
10. Scolopendra cingulata Latz. Dalmatien
11. Lithobius validus Oesterreich
12. Lithobius mutabilis Koch Bayern
13. 〃 erythrocephalus 〃 Tirol
14. 〃 lucifugus 〃 〃
15. 〃 nodulipes Latz. Bayern
16. Pachyiulus crassinensis Verh. Italien
17. Glomeris euganeorum 〃 〃
18. 〃 romana Verh. var. luccensis 〃
19. 〃 marginata Vill. Rheinland
20. 〃 quadrifasciata var. sevini Verh. S. Alpen
21. Orthochordeuma germanicum Verh. Schwarzwald
22. Chordeuma silvestre Latz. Rheinland
23. Microchordeuma voigtii Verh. 〃
24. Ophiiulus fallax major Digl. u. Verh. Alpen
25. 〃 rubrodorsalis Verh. S. Alpen
26. Cylindroiulus apenninorum Bröl. Apennin
27. 〃 luridus Latz. Ungarn
28. 〃 castanearum Verh. Piemont
29. 〃 dicentrus Latz. Krain
30. 〃 nitidus Verh. Bayern
31. 〃 verhoeffii Bröl. S. Alpen
32. Haploporatia carniolense spiculigerum Verh. Oesterreich
33. Tessinosoma caelebs Verh. Piemont
34. Verhoeffia rothenbühleri 〃 Süd-Alpen
35. Trimerophoron grypischium Roth. Bayern
36. Orobainosoma flavescens Latz. 〃

それでは，第3回目の日本産標品の到着を心からお待ちしながらペンをおきます。」

第8信 (1935. 6. 5 發信)

「その後私が送りました小包と手紙とを御受取り下さつたことゝ想います。

今日私はあなたに，日本產倍足類について研究しました26の原圖を伴う原稿を1つ送りました。いつか申上げましたように，これを日本の學術雜誌へ發表して頂きたいと思います。それから出來るなら校正刷を送つて下さると有難いのですが，おたのみ致します。

この前にあなたがお送りになつた動物についての第2の論文がやがて〃Zoologischer Anzeiger〃に出ます。」

以上です。私はこれ迄ヘルヘフ博士の御手紙の終りにある結びの挨拶と申しますか，それを譯すことをしないで來ました。しかしこれはいつも同じように恐惶謹言の類です。

第9信 (1935. 11. 2 發信)

「最近お送り下さつたあなたのお手紙と御高著有難く拜受しました。お禮申上げます。

さて私の論文を載せて下さることになつた貴國の學會への入會金4円也のことですが，もしあなたの方でお拂込み下さるならばまことに有難いことと思います。そのつぐないとして私はあなたに私の書きました論文を少くとも30册ほど謹呈しようと思います。

昨日私はあなたに又私の近著數册を進呈しました。その論文の1つ※に〃Colobognatha〃の2新屬を，(それはあなたがお採りになつたものですが) ふくんだものがありますから御覽下さい。

あなたがお送り下さつた標品の中に明らかに種を決定することが出來ない若干の倍足類があります。それは殘念ながら雄がいないからです。」以上で第9信は終つています。

※ Zoologischer Anzeiger, 1935, Bd. 112, Heft 3/4

1949. 7. 16 三瓶にて　　敬具

(次號に續く)